

「家がいいね」 第18号

いせ在宅医療クリニック 広報月刊紙

2005.11.7.

「こんなことを聞いてもいいでしょうか」

診察や面談の終わりがけに、こう聞かれることがあります。気兼ねをしながら、本題と違う事をお話と話ししたい、あるいは尋ねてみたいと思われるわけですね。実は、これこそが大事な内容を含んでいると、私は思っています。



心の中で微笑んで、「まあ、きたぞ」と嬉しさをもちつつ、「ええ、どうぞお話しください」と受けます。血圧や体調など定型的なことをお聞きするだけで、3分間は直ぐに過ぎます。私のクリニックの診察時間が長いのは、実はその先が聞きたいからです。こちらから「それ以外に、何かお聞きすることはないでしょうか」と尋ねてみることもします。「**聞くのもためられる**」**「こんなこと」**は、自分自身が押さえつけてきた考えの事が多いものです。それこそが、解決を求めている本題に近い事もあります。さあ、どうぞ、お話ししてみてください。

おとなこそ、絵本を読もう

十一月の最初の土日、小俣図書館に柳田邦男さんが、講演にやってきました。もう70歳に手の届く年とのことですが、精力的に絵本を読む運動を提唱し、全国を回っておられます。人生に必要な、親子のふれあいが当初から欠落しがちで、虐待や少年犯罪までに至る時代である事にも警鐘を鳴らして来られました。自分たちに近い問題と考えると、TV・携帯電話などの便利な物に頼りすぎ、ナマのふれあいを怠ってきたのも一因です。一緒に本を読む、声を出す事により、互いの感情を大事にする時間が生まれます。「人は、人生で**3回、絵本に出会う**」そして、ライフ・レッスンとして、死をこえて命をつなげることとなります。

こんな絵本を読もう

年をとると、身体の衰えつつある象と、仲のよいネズミの日々が描かれます。象は先祖たちの住む国への死出の旅を、打ち明けます。ネズミは別れるなんて考えられず拒みました。そのため、いったん元の生活に戻った二人でしたが、ネズミの気持ちは介護の中で少しずつ変わります。二人は別れの言葉を交わします。(むしろ私達にとっては、



そう言えなかった、辛い記憶が多いのです)

文溪堂 1500円

発売直後のため、絵本の店(みやがわ書店 22・4317)までお問い合わせ下さい。クリニックでも見本をご覧ください。

お休みのお知らせ



「ぼくが、なおすよ」
ネズミはいいました。
「でも、つりばしをわたっても、もどってくるってやくそくしてね」

12月3日(土)アルコール学会出張 臨時休診

少し早いですが、年末年始のお休みは
12月28日(水) までは平常どおり
29日(木) 1月3日(火) 休診
新年1月4日(水) からは平常どおり

在宅患者さんの緊急対応はこの期間も致します。(この時期、新規のご紹介には対応出来ません)



自宅での人生を
最期まで支援します

〒516-0805

三重県伊勢市御園町高向 927

電話 0596-20-8104

ファクス 0596-20-8105

mail homecare@kr.tcp-ip.or.jp